



Dell™ PowerEdge™ システム用  
Microsoft® Windows Server® 2003 R2,  
Datacenter x64 Edition With Unlimited  
Virtualization With SP2

重要情報

## メモおよび注意

-  **メモ**：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意**：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

---

**本書の内容は予告なく変更されることがあります。**  
**© 2007 すべての著作権は Dell Inc. にあります。**

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、OpenManage、および PowerEdge は Dell Inc. の商標です。Microsoft、Active Directory、Windows、Windows NT、および Windows Server は米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Unix は米国その他の国における Open Group の登録商標です。Intel、SpeedStep、および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Xeon は Intel Corporation の商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

# 目次

サポートされている最も低いバージョン— BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ	5
信頼済みサイトのブラウザへの追加	10
<b>R2 の Hardware Management</b>	
<b>コンポーネント</b>	<b>11</b>
<b>既知の問題</b>	<b>13</b>
ネットワーク	13
R2 のオプションコンポーネント	15
<b>索引</b>	<b>19</b>



本書には、Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 に関する重要な情報が記載されています。

本書では、以下の項目について説明します。

- サポートされている BIOS、システムファームウェア、RAID コントローラドライバの最も低いバージョン
- 信頼済みサイトのブラウザへの追加
- R2 の Hardware Management コンポーネント
- 既知の問題



**注意：**ウイルスのネットワーク侵入を防止するために、別のシステムを使用して Microsoft のウェブサイト [www.update.microsoft.com](http://www.update.microsoft.com) からパッチ、修正プログラム、およびサービスパックをダウンロードすることをお勧めします。アップデートをインストールする前に、Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 を実行しているシステムがネットワークに接続されていることを確認してください。

## サポートされている最も低いバージョン — BIOS、システムファームウェア、および RAID コントローラドライバ



**メモ：**本項の表には、該当する Dell PowerEdge™ システムで Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 をサポートするための最小要件を示しています。Dell PowerEdge Service and Diagnostic Utilities メディアまたはデルサポートサイト [support.dell.com/support/downloads](http://support.dell.com/support/downloads) にある最新の BIOS、ファームウェア、およびドライバを使用することを強くお勧めします。

Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 をサポートする PowerEdge システム、およびサポートされている BIOS、ベースボード管理コントローラ (BMC)、Emergency Management Services (EMS) ファームウェアの最も低いバージョンの一覧を表 1-1 に示します。

表 1-1 サポートされている最も低いバージョン — BIOS/BMC

PowerEdge システム	サポートされている BIOS/BMC のバージョン
1850	A02/A02 またはこれ以降
1855	A02/A00 またはこれ以降
1950	1.0.0/A00 またはこれ以降
1955	A00
2850	A02/A02 またはこれ以降
2900	1.0.0/A00 またはこれ以降
2950	1.0.0/A00 またはこれ以降
6850	A00/A01
6950	A00
2970	A00

利用可能な RAID コントローラ用のシステムファームウェアおよびドライバ（ネイティブおよび非ネイティブ）のサポートされている最も低いバージョンを表 1-2 に示します。ネイティブドライバは OS に含まれていますが、非ネイティブドライバは含まれていません。非ネイティブドライバとユーティリティは、デルサポートサイト

**support.dell.com /support/downloads** からダウンロードできます。または、Dell システムに付属の Dell PowerEdge Service and Diagnostic Utilities メディアに収録されています。

お使いのシステムが表 1-1 と表 1-2 のどちらにも載っていない場合は、システムのマニュアルを参照して、Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 がお使いのシステムでサポートされているかどうかを判断してください。

表 1-2 サポートされている最も低いバージョン—システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ

製品および対応プラットフォームフォーム	最低必要なファームウェアバージョン	最低必要なドライババージョン	ドライバが OS に含まれているかどうか
PowerEdge 1950、2950 上の SAS 5/i Integrated	00.06.40.00.06.06.00.02	1.21.08.00	×
PowerEdge 1950、2950 上の PowerEdge Expandable RAID Controller(PERC)5/e アダプタ	5.0.1-0026	1.18.0.64	×
PowerEdge 1950、2950 上の PERC 5/i アダプタ	5.0.1-0030	1.18.0.64	×
PowerEdge 1950、2950 上の Adaptec 39320A	4.30.1	7.0.0.1	×
PowerEdge 1950、2950 上の PERC 4e/DC	521X	6.46.3.64	○
PowerEdge 1850 上の PERC 4/SC	351H	6.37.2.64	○(ネイティブ)
PowerEdge 1850、2850、6850 上の PERC 4/DC	351H	6.37.2.64	○
CERC SATA 6CH	4.1.0.7403	4.1.1.7033	×
PowerEdge 1850 上の PERC 4e/Si	521H	6.44.3.64	○

表 1-2 サポートされている最も低いバージョン—システムファームウェアおよび RAID コントローラドライバ（続き）

製品および対応プラットフォームフォーム	最低必要なファームウェアバージョン	最低必要なドライババージョン	ドライバが OS に含まれているかどうか
PowerEdge 2850、6850 上の PERC 4e/Di	521H	6.44.3.64	○
PowerEdge 1850、2850、6850 上の PERC 4e/DC	521H	6.37.2.64	○

**メモ：**ドライバとファームウェアは、Dell PowerEdge Service and Diagnostic Utilities メディアと System Support メディアに収録されています。デルサポートサイト [support.dell.com](http://support.dell.com) からダウンロードすることも可能です。

Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 用のハードウェア構成について Microsoft が公表している最小要件と推奨される要件の一覧を表 1-3 に示します。

表 1-3 R2 用のハードウェア構成について Microsoft が公表している最小要件と推奨される要件

サポートされているハードウェア	最小	推奨
Intel EM64T ベースの Xeon®	2.80 GHz	3.60 GHz
Intel EM64T ベースの Pentium®	3.20 GHz	3.60 GHz
メモリ	1 GB	1 GB
ディスクスペース	4 GB*	4 GB*

\*デルではシステムのパーティションとして 12 GB を確保することをお勧めします。デルが工場出荷時にインストールするイメージおよび Dell PowerEdge Installation and Server Management メディアのデフォルト設定は、12 GB です。



Execute Disable (XD) および Enhanced Intel® SpeedStep® Technology (EIST) をサポートする BIOS の最小要件を表 1-4 に示します。Intel EM64T をベースとする Dell PowerEdge システムは、Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 の次の機能をサポートしています。

- **データ実行防止 (DEP)**。この機能は、2004 年 10 月以降に出荷された対応済み PowerEdge システムに組み込まれている XD 対応プロセッサを必要とします。
- **System Balanced Processor Power and Performance** (プロセッサの電源消費とパフォーマンスのバランスの取れたシステム)。この機能は、サポートされている Intel プロセッサで EIST を利用します。この OS 機能がサポートされるかどうかは、プロセッサのモデル、周波数、およびステッピングによって決まります。

32 ビットの Windows Server 2003 SP1 に導入されている DEP および System Balanced Processor Power and Performance (プロセッサの電源消費とパフォーマンスのバランスの取れたシステム) は、ハードウェアのサポートを必要とする R2 で利用できる新しい機能です。

**表 1-4 Dell PowerEdge システム上で XD および EIST をサポートするための BIOS の最小要件**

Dell PowerEdge システム	XD のサポートに最低必要な BIOS のリビジョン	EIST のサポートに最低必要な BIOS のリビジョン
1850	A02	A02
1855	A02	A02
1950	1.0.0	1.0.0
1955	A00	A00
2850	A02	A02
2950	1.0.0	1.0.0
6850	A00	A00
6950	A00	A00
2970	A00	A00

## 信頼済みサイトのブラウザへの追加

Microsoft の高度なセキュリティ基準により、インターネットまたはイントラネットのサイトにはじめてアクセスする場合、サイトを信頼済みサイトゾーンに追加するように求めるメッセージが表示される場合があります。

信頼済みサイトをブラウザに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ツール メニューで **インターネットオプション** をクリックします。  
**インターネットオプション** ウィンドウが表示されます。
- 2 **セキュリティ** タブ をクリックします。  
**セキュリティ** タブのメニューが表示されます。
- 3 **信頼済みサイト** をクリックします。
- 4 **サイト** をクリックします。  
**信頼済みサイト** ウィンドウが表示されます。
- 5 **次の Web サイトをゾーンに追加する** フィールドにサイトのアドレスを入力して、**追加** をクリックします。  
**Web サイト** ボックスにサイトが表示されます。
- 6 手順 5 を繰り返して他のサイトを追加し、**閉じる** をクリックします。  
**インターネットオプション** ウィンドウが表示されます。
- 7 **OK** をクリックします。

## R2 の Hardware Management コンポーネント

R2 には Hardware Management と呼ばれるオプションのコンポーネントが含まれています。Hardware Management には、システムハードウェアの管理を改善する一連の機能があります。

Hardware Management コンポーネントの詳細については、Microsoft のウェブサイト

**[www.microsoft.com/technet/scriptcenter/preview/wsm/intro.msp](http://www.microsoft.com/technet/scriptcenter/preview/wsm/intro.msp)** で関連する情報を参照してください。


追加の R2 コンポーネントをインストールする詳細な手順については、ユーザズガイドのウェブサイト **[www.dell.com/ostechsheets](http://www.dell.com/ostechsheets)** で、Dell PowerEdge システム用 Microsoft Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition With Unlimited Virtualization With SP2 の『インストール/セットアップガイド』を参照してください。

BMC が含まれているシステムに Hardware Management コンポーネントをインストールする際に、次のメッセージが表示される場合があります。

```
An IPMI device has been registered within the system BIOS; all 3rd party IPMI drivers must be removed from the system prior to installation in order to prevent system instability; if all 3rd party drivers have been removed or you wish to ignore this risk press 'OK' otherwise press 'Cancel'.
```

(システム BIOS 内には、IPMI デバイスが登録されています。システムが不安定になることを避けるには、インストールを実行する前にサードパーティの IPMI ドライバをすべてシステムから削除する必要があります。すべてのサードパーティ製ドライバが削除されているか、またはこのリスクを無視する場合は、OK を押します。それ以外の場合は キャンセル を押します。)

続行する前にサードパーティ製のインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) ドライバをすべてアンインストールすることをお勧めします。

 **メモ** : Dell OpenManage™ 4.5.x では R2 IPMI ドライバは使用できず、Dell IPMI ドライバが必要です。第 8 世代の PowerEdge システムの管理に Dell OpenManage 4.5.x を使用する場合は、システムに R2 IPMI をインストールしないことを強くお勧めします。各種 Dell OpenManage に R2 IPMI ドライバを使用した場合の影響、および Dell OpenManage において発生し得る制約の詳細については、デルサポートサイト [support.dell.com](http://support.dell.com) で『What Versions of Dell OpenManage are Supported in Microsoft Windows Server 2003 R2?』（Microsoft Windows Server 2003 R2 でサポートされている Dell OpenManage のバージョン）を参照してください。

Hardware Management コンポーネントをインストールした後で、(必要に応じて) 次のコマンドを使用して IPMI デバイスドライバを手動でインストールします。Rundll32 ipmisetp.dll, AddTheDevice

IPMI デバイスは、**デバイスマネージャ** を開くと、**システムデバイス** の下の **Microsoft Generic IPMI Compliant Device** (Microsoft のジェネリック IPMI 対応デバイス) という項目の下に表示されます。

R2 の Hardware Management コンポーネントと IPMI ドライバは、IPMI バージョン 1.5 およびそれ以降をサポートする BMC を備えた PowerEdge システムでのみサポートされています。R2 IPMI ドライバは、IPMI バージョン 1.0 をサポートする BMC を備えた PowerEdge システムをサポートしていません。これらのシステムは、Dell OpenManage IPMI ドライバを引き続き使用できます。

PowerEdge システムにおける R2 IPMI ドライバと Dell OpenManage IPMI ドライバのサポートマトリクスを表 1-5 に示します。

表 1-5 R2 IPMI および Dell OpenManage IPMI ドライバのサポートマトリクス

PowerEdge システム	R2 IPMI ドライバのサポート	Dell OpenManage IPMI ドライバのサポート
1850	○	○
1855	○	○
1950	○	○
1955	○	○

表 1-5 R2 IPMI および Dell OpenManage IPMI ドライバのサポートマトリクス

PowerEdge システム	R2 IPMI ドライバのサポート	Dell OpenManage IPMI ドライバのサポート
2850	○	○
2950	○	○
6850	○	○
6950	○	○
2970	○	○

## 既知の問題

本項では、Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 におけるネットワークとオプションの R2 コンポーネントに関する既知の問題について説明します。

### ネットワーク



**メモ**：Broadcom 5708 ネットワークデバイスを搭載したシステムに Windows 2003 を導入する場合は、[support.dell.com](http://support.dell.com) で最新の『Broadcom NetXtreme II Tech Sheet and Best Practices』（Broadcom NetXtreme II 技術シートとベストプラクティスガイド）を参照してください。

- **Broadcom 5708 ネットワークデバイスを使用する際にリモートインストールサービス（RIS）に専用のドライバが必要とされる。**


RIS ドライバは、**Broadcom NetXtreme II アダプタファミリー** のドライバパッケージに入っています。このドライバは RIS のインストール以外には使用しないでください。OS のインストール後に **Broadcom NetXtreme II アダプタシリーズ** のドライバパッケージのセットアップを実行し、ネットワーク接続の全体を有効にしてください。

R2 コンポーネントとは関係のない Windows Server 2003 の問題については、[www.dell.com/ostechsheets](http://www.dell.com/ostechsheets) で Dell PowerEdge システム用の Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 の『重要情報』を参照してください。

- **Microsoft Scalable Networking Pack** をインストールすると、**DHCP から静的 IP アドレスに変更する時、またはゲートウェイの IP アドレスを変更する時に、画面が青色（ブルースクリーン）になる。**

この問題は、変更を適用する時点でアクティブな TCP (transport control protocol) 接続が TCP/IP オフロードエンジン (TOE) ネットワークデバイスにオフロードされている場合にのみ発生します。この問題を回避するには、以下に説明する 2 つの方法のいずれかを実行してください。

- デフォルトゲートウェイを適用する前に、SNP (secure network programming) のオフロード機能を無効にします。netsh コマンドを使用して SNP を無効にし、IP アドレスを変更した上で、再び有効にします。SNP を無効にするにはコマンド netsh int ip set chimney disabled を使用し、再び有効にするにはコマンド netsh int ip set chimney enable を使用します。
- IP アドレスの変更を適用する前に、**ネットワーク接続** フォルダで **TOE LAN Connection** (TOE LAN 接続) オブジェクトを右クリックし、**Disable (Enable)** (無効 (有効)) オプションを選択して、TOE NIC を無効にします。IP アドレスを変更した後で TOE NIC を有効にします。

 **メモ**：この問題を解決する方法は Microsoft 技術情報の記事で解説される予定です。

- **複数のネットワークデバイスに同一の IP アドレスを設定すると、Microsoft Scalable Networking Pack をインストールした後で、画面が青色（ブルースクリーン）になる。**


この問題を回避するには、システム BIOS でネットワークデバイスを無効にし、OS に戻って IP アドレスを競合しないアドレスに変更します。

## R2 のオプションコンポーネント

- **ハードウェアイベントが XML フォーマットで表示される。**

R2 の Hardware Management コンポーネントと IPMI ドライバをインストールすると、イベントログビューア内に Hardware Events (ハードウェアイベント) という題名の新しいログが作成されます。このログは、ベースボード管理コントローラシステム イベントログ (BMC SEL) 内のすべてのエントリをキャプチャし、表示します。

アプリケーションログやシステムイベントログのエントリとは異なり、ハードウェアイベントログ内のエントリは raw XML フォーマットで表示されます。これはテキストに翻訳されていないので、解読が困難です。

 **メモ** : Dell OpenManage または DRAC (Dell Remote Access Controller) を使用して、BMC SEL のエントリをテキストフォーマットで表示することができます。詳細については、デルサポートサイト [support.dell.com](http://support.dell.com) を参照してください。

イベントの原因を特定するには、IPMI デバイスからメッセージ付きで届いたシステムイベントを探してください。関連するハイパーリンクと共に、SEL エントリの簡単な説明が表示されます。それはイベントに関する情報を示すものです。

- **IPMI ドライバが、デバイスマネージャ内で黄色い警告マークとして表示される。**

R2 IPMI ドライバを、BMC で設定されていないシステムに手動でインストールした場合、**デバイスマネージャ** 内でそのドライバに黄色い警告マークが表示され、ドライバが起動できなかったことを示すメッセージが表示されます。

これは予期される動作です。ドライバが BMC と通信できないからです。

この問題を回避するには、BMC がサポートまたはインストールされていないシステムには IPMI ドライバをインストールしないでください。

R2 IPMI ドライバをサポートするシステムの一覧は、表 1-4 を参照してください。

- **アプリケーションイベントログに WinRM エラーが表示される。**

R2 の Hardware Management コンポーネントをインストールすると、再起動するたびにアプリケーションイベントログに WinRM (Windows Remote Management) エラーメッセージが表示されるようになります場合があります。

このエラーメッセージが表示されるのは、リスナーサービスが WS-Management 内で設定されなかったためです。このエラーメッセージを削除するには、WS-Management 内でリスナーサービスを作成するか、WS-Management サービスをオフにします。WS-Management 設定の詳細については、Microsoft Hardware Management のウェブサイト

[www.microsoft.com/technet/scriptcenter/preview/wsm/intro.mspx](http://www.microsoft.com/technet/scriptcenter/preview/wsm/intro.mspx) か、または Hardware Management のヘルプセクションを参照してください。

- **Windows Server 2003 R2, Datacenter x64 Edition With Unlimited Virtualization With SP2 を実行しているシステム上の MSCS (Microsoft Clustering Services) の有効化。**

Windows Server 2003 R2 Datacenter x64 Edition with Unlimited Virtualization with SP2 を実行しているシステム上で MSCS を有効にするには、追加の R2 コンポーネントをインストールする前に MSCS を設定する必要があります。追加の R2 コンポーネントがインストール済みの場合はいったんアンインストールし、MSCS を設定してから R2 コンポーネントを再インストールします。この手順を実行することで、R2 コンポーネントはクラスタ環境内で正常に機能するようになります。

- **システムイベントログにネットワークファイルシステム (NFS) サービスが終了したというエラーが表示される。**

R2 内のコンポーネント Microsoft Services for the NFS をアンインストールすると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
The Server for NFS terminated with the following error. The system cannot find the file specified.
```

(NFS 用のサーバーが次のエラーで停止しました。システムは指定されたファイルを見つけることができません。)

この問題は各サービスの停止命令が原因で発生するものであり、OS の機能には何ら影響がなく、無視してかまいません。



- **アプリケーションイベントログに Perflib エラーが表示される。**

R2 のオプションコンポーネントをインストールすると、アプリケーションイベントログ内にソース **Perflib** からのエラー（イベント ID 1008）が発生する場合があります。

この問題は、ASP.NET パフォーマンスカウンタと Internet Information Server (IIS) の制約が原因で発生します。この問題により、**PerfMon** 内の ASP.NET カウンタが影響を受けます。Microsoft は現在、OS の将来のリリースでこの問題を解決できるように取り組んでいます。

- **アプリケーションイベントログに Windows NT® to UNIX Password Synchronization エラーが表示される。**

R2 の Identity Management for UNIX® コンポーネントをインストールし、アンインストールすると、アプリケーションイベントログに、ソース Windows NT to UNIX Password Synchronization（イベント ID 16386 および 8192）からのエラーメッセージが表示される場合があります。

この問題は、OS のどのコンポーネントの機能にも影響を与えません。Microsoft は現在、Microsoft Windows® OS の将来のリリースでこの問題を解決できるように取り組んでいます。

- **アプリケーションイベントログに system Use Agreement (SUA) エラーが表示される。**

IIS がインストールされたシステムに subsystem for UNIX-based Applications と Microsoft Services for NFS という R2 コンポーネントをインストールすると、アプリケーションイベントログにソース SUA からのエラーメッセージ（イベント ID 1013）が表示される場合があります。

この問題は、OS のどのコンポーネントの機能にも影響を与えません。Microsoft は現在、Windows OS の将来のリリースでこの問題を解決できるように取り組んでいます。

- システムイベントログに **IIS Admin** サービスが終了したというエラーメッセージが表示される。

R2 システムのコンポーネント IIS と Microsoft ADFS をアンインストールすると、システムイベントログに *IIS Admin Service terminated with service-specific error* (IIS Admin サービスがサービス固有のエラーによって終了しました) というエラーメッセージが表示されます。このエラーはコンポーネントのアンインストール中のみ発生するものなので、OS のどのコンポーネントの機能にも影響を与えません。Microsoft は現在、Windows OS の将来のリリースでこの問題を解決できるように取り組んでいます。

# 索引

## B

### BIOS

- EIST をサポートするための最小要件, 9
- XD をサポートするための最小要件, 9
- サポートされている最も低いバージョン, 5-9

BMC, 5, 6

BMC SEL, 15

## D

DEP, 9

## E

EIST, 9

Emergency Management Service

「EMS」を参照

EMS, 5

Enhanced Intel SpeedStep Technology 6

「EIST」を参照

## H

Hardware Management, 11

## I

Intel, 8, 9

### IPMI

R2 ネイティブ IPMI  
ドライバのサポート  
マトリクス, 12

デバイス, 11

ドライバ, 11

## M

Microsoft, 8, 10

Microsoft Management Console

「MMC」を参照

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, 5

## R

RAID コントローラ  
最も低いドライバのバージョン, 5-9

## W

Windows Server 2003 R2  
重要情報, 11

## X

XD, 9

## う

ウイルス, 5

## き

黄色い警告マーク, 13

既知の問題

IPMI ドライバが黄色い  
警告マークとして表  
示される, 15

アプリケーションイベント  
ログに WinRM エラー  
が表示される, 16

既知の問題 ( 続き )

ハードウェアイベントがXML  
フォーマットで表示さ  
れる, 15

## し

システムソフトウェア  
サポートされている最も低い  
バージョン, 5-9

重要情報

Windows Server 2003 R2, 11

信頼済みサイト

ブラウザへの追加, 10

## て

データ実行防止

「DEP」を参照, 9

デバイスマネージャ

黄色い警告マーク, 13

## ね

ネイティブおよび非ネイティブのドライバ, 6

## は

ハードウェア構成, 8

## ふ

プロセッサの電源消費とパフォーマンスのバランスの取れたサーバー, 9

## へ

ベースボード管理コントローラ

「BMC」を参照, 5

ベースボード管理コントローラのシステムイベントログ

「BMC SEL」を参照, 15

## め

メモリ, 8

